

東北圏広域地方計画の概要

平成26年12月15日

東北圏広域地方計画推進室

国土形成計画について

国土形成計画の枠組み

根拠法：国土形成計画法
(国土総合開発法の抜本改正により平成17年に成立)

全国計画（平成20年7月閣議決定）

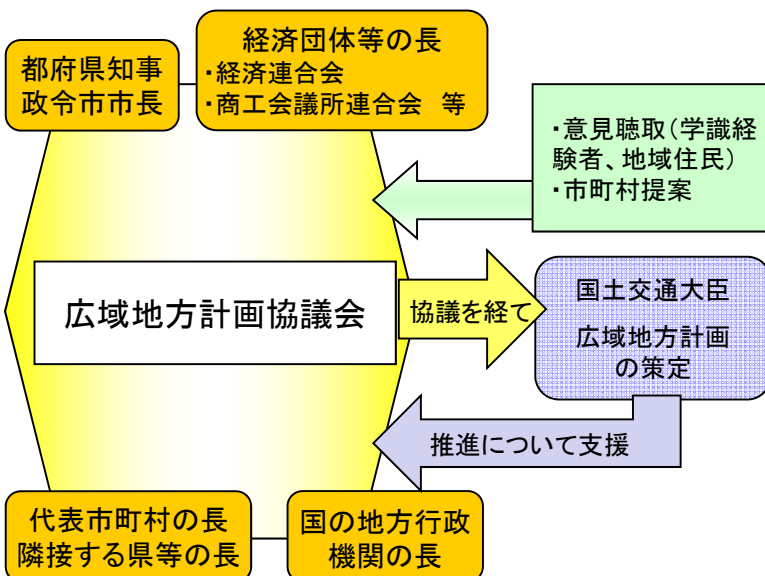
- 長期的な国土づくりの指針（閣議決定）
- 地方公共団体から国への計画提案制度



広域地方計画（平成21年8月策定）

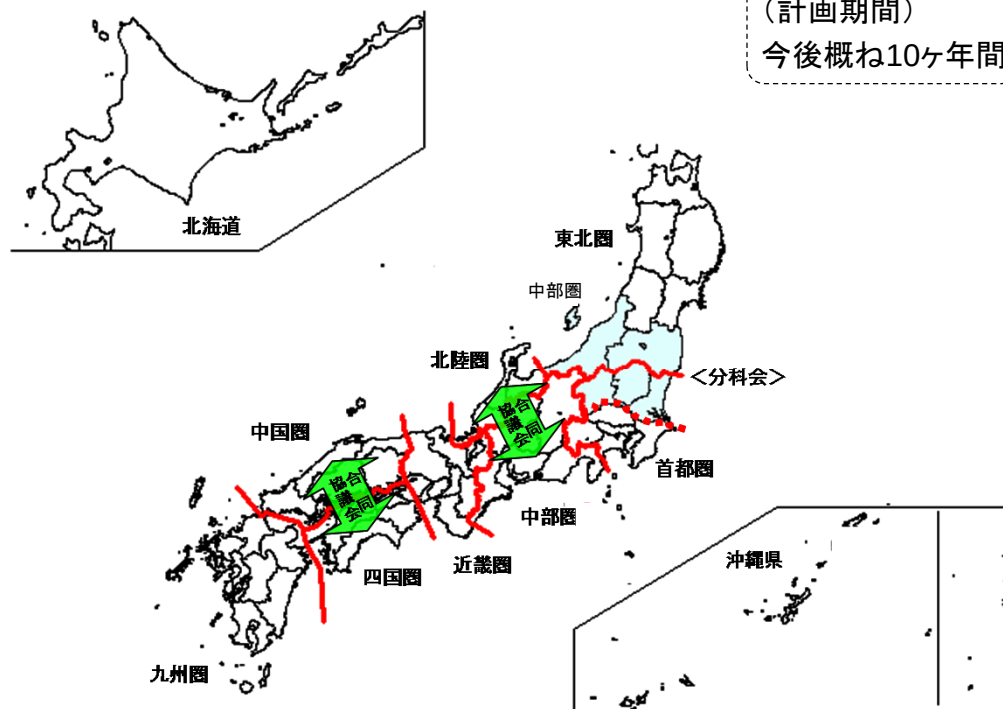
○ 国と地方の協働による広域ブロックづくり

- ・ 国、地方公共団体、経済団体等で広域地方計画協議会を組織し、計画及びその実施に関し必要な事項について協議



新しい国土像

多様な広域ブロックが自立的に発展する国土を構築するとともに、美しく、暮らしやすい国土の形成を図る



- 広域ブロックごとに特色ある戦略を描く
- 各ブロックが交流・連携、相乗効果による活力
- 各地域が相互に補い合って共生
- 文化・伝統や個性ある景観など美しい国土の再構築

これまでの国土計画

	全国総合開発計画 (一全総)	新全国総合開発計画 (新全総)	第三次全国総合開発計画 (三全総)	第四次全国総合開発計画 (四全総)	21世紀の国土の グランドデザイン	国土形成計画 (全国計画)
閣議決定	昭和37年10月 5 日	昭和44年 5 月30日	昭和52年11月 4 日	昭和62年 6 月30日	平成10年 3 月31日	平成20年 7 月 4 日
背 景	1 高度成長経済への移行 2 過大都市問題、所得格差の拡大 3 所得倍増計画(太平洋ベルト地帯構想)	1 高度成長経済 2 人口、産業の大都市集中 3 情報化、国際化、技術革新の進展	1 安定成長経済 2 人口、産業の地方分散の兆し 3 国土資源、エネルギー等の有限性の顕在化	1 人口、諸機能の東京一極集中 2 産業構造の急速な変化等により、地方圏での雇用問題の深刻化 3 本格的国際化の進展	1 地球時代(地球環境問題、大競争、アジア諸国との交流) 2 人口減少・高齢化時代 3 高度情報化時代	1 経済社会情勢の大転換(人口減少・高齢化、グローバル化、情報通信技術の発達) 2 国民の価値観の変化・多様化 3 国土をめぐる状況(一極一軸型国土構造等)
目標年次	昭和45年	昭和60年	昭和52年から おおむね10年間	おおむね平成12年 (2000年)	平成22年から27年 (2010-2015年)	平成20年から おおむね10年間
基本目標	地域間の 均衡ある発展	豊かな環境の創造	人間居住の 総合的環境の整備	多極分散型国土の 構築	多軸型国土構造 形成の基礎づくり	多様な広域ブロックが自立的に発展する国土を構築、美しく、暮らしやすい国土の形成
開発方式等	拠点開発方式 目標達成のため工業の分散を図ることが必要であり、東京等の既成大集積と関連させつつ開発拠点を配置し、交通通信施設によりこれを有機的に連絡させ相互に影響させると同時に、周辺地域の特性を生かしながら連鎖反動的に開発をすすめ、地域間の均衡ある発展を実現する。	大規模開発プロジェクト構想 新幹線、高速道路等のネットワークを整備し、大規模プロジェクトを推進することにより、国土利用の偏在を是正し、過密過疎、地域格差を解消する。	定住構想 大都市への人口と産業の集中を抑制する一方、地方を振興し、過密過疎問題に対処しながら、全国土の利用の均衡を図りつつ人間居住の総合的環境の形成を図る。	交流ネットワーク構想 多極分散型国土を構築するため、①地域の特性を生かしつつ、創意と工夫により地域整備を推進、②基幹的交通、情報・通信体系の整備を国自らあるいは国の先導的な指針に基づき全国にわたって推進、③多様な交流の機会を国、地方、民間諸団体の連携により形成。	参加と連携 一多様な主体の参加と地域連携による国土づくり (4つの戦略) 1 多自然居住地域(小都市、農山漁村、中山間地域等)の創造 2 大都市のリノベーション(大都市空間の修復、更新、有効活用) 3 地域連携軸(軸状に連なる地域連携のまとめ)の展開 4 広域国際交流圏(世界的な交流機能を有する圏域の形成)	(5つの戦略的目標) 1 東アジアとの交流・連携 2 持続可能な地域の形成 3 災害に強いしなやかな国土の形成 4 美しい国土の管理と継承 5 「新たな公」を基軸とする地域づくり

国土形成計画(全国計画)について

平成20年7月4日閣議決定

新しい国土像

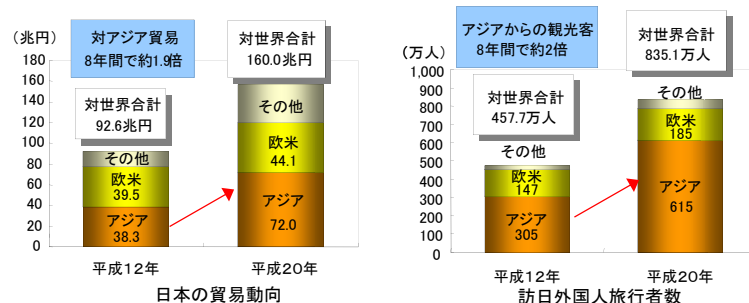
多様な広域ブロックが自立的に発展する国土を構築するとともに、美しく、暮らしやすい国土の形成を図る

新しい国土像実現のための戦略的目標

＜グローバル化や人口減少に対応する国土の形成＞

東アジアとの円滑な交流・連携

広域ブロックが東アジアの各地域と直接交流・連携し、アジアの成長のダイナミズムを取り込んでいく



持続可能な地域の形成

人口減少下においても、地域力(地域の総合力)の結集、地域間の交流・連携により、魅力的で質の高い生活環境を維持していく

＜安全で美しい国土の再構築と継承＞

災害に強いしなやかな国土の形成

減災の観点も重視した災害対策や災害に強い国土構造への再構築を進め、安全で安心した生活を保障していく

美しい国土の管理と継承

美しい国土を守り、次世代へと継承するため、国土を形づくる各種資源を適切に管理、回復



＜4つの戦略的目標を推進するための横断的視点＞

「新たな公」を基軸とする地域づくり

多様な主体の参画を、地域の課題の解決やきめ細かなサービスの供給につなげる

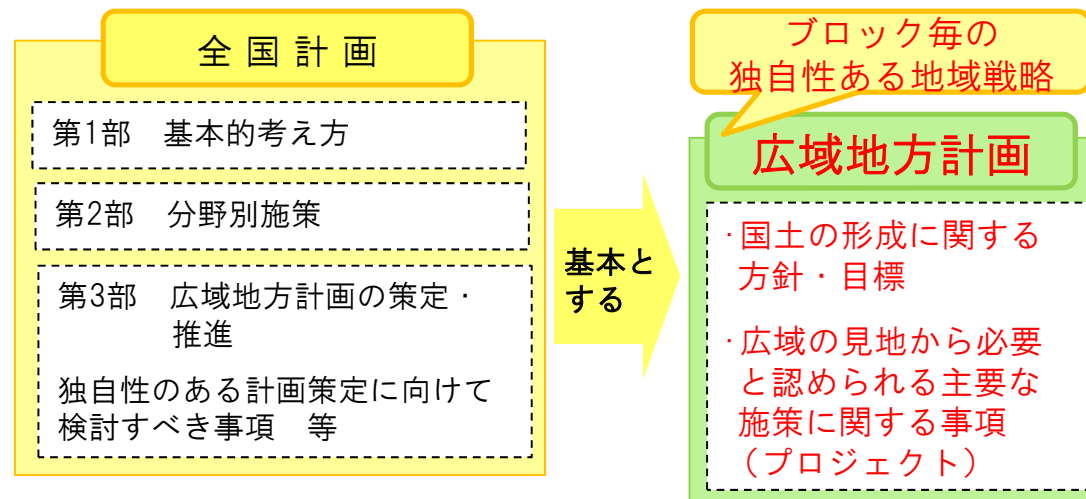


国土形成計画(広域地方計画)について

平成21年8月4日国土交通大臣決定

計画期間は、21世紀前半期を展望しつつ今後概ね10年間

国土形成計画の体系



計画の推進

- 計画に位置づけられた各プロジェクトについて、それぞれの主体が取組みを実施
- 毎年度、計画の推進状況を把握検証し、更なる推進に向けた課題への対応等について検討を行う「モニタリング」を実施し、計画の実行性を担保

広域地方計画のプロジェクトの例

《ものづくり産業の競争力強化/次世代産業のイノベーションプロジェクト(中部圏)》

[海外からの企業誘致・技術交流等]

- グレーター・ナゴヤ・イニシアティブ等による中部圏の産業集積のブランド化と価値発信による海外企業の進出誘致
- アジアの国・地域との経済パートナーシップの構築

[研究開発中枢拠点の充実・高度人材の育成]

- シンクロトロン光研究やインキュベーション推進のための「知の拠点」(研究開発拠点)の整備
- 県営名古屋空港周辺におけるJAXAの航空機研究開発拠点の整備

[産学官連携体制の強化・ネットワークの形成]

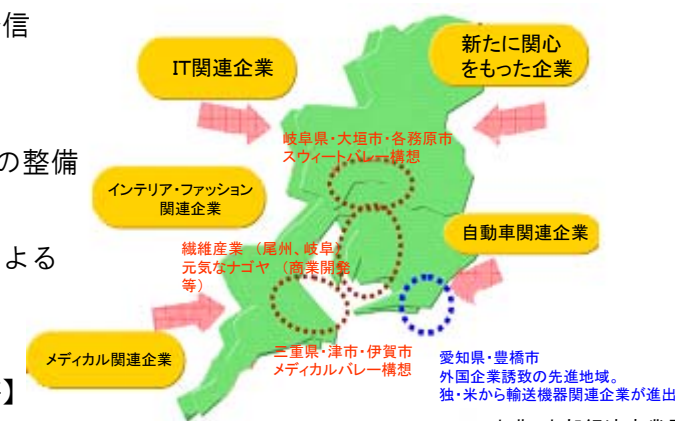
- 高機能デバイス、光技術、健康・食品等に特化した産業クラスターや知的クラスターによるイノベーションの誘発

[産業用地・交通網・物流拠点の形成]

- 臨海部や中央自動車道沿線等における利便性が高い産業用地の整備・供給
- 国際空港へのアクセスに優れた中部臨空都市等における物流拠点の整備

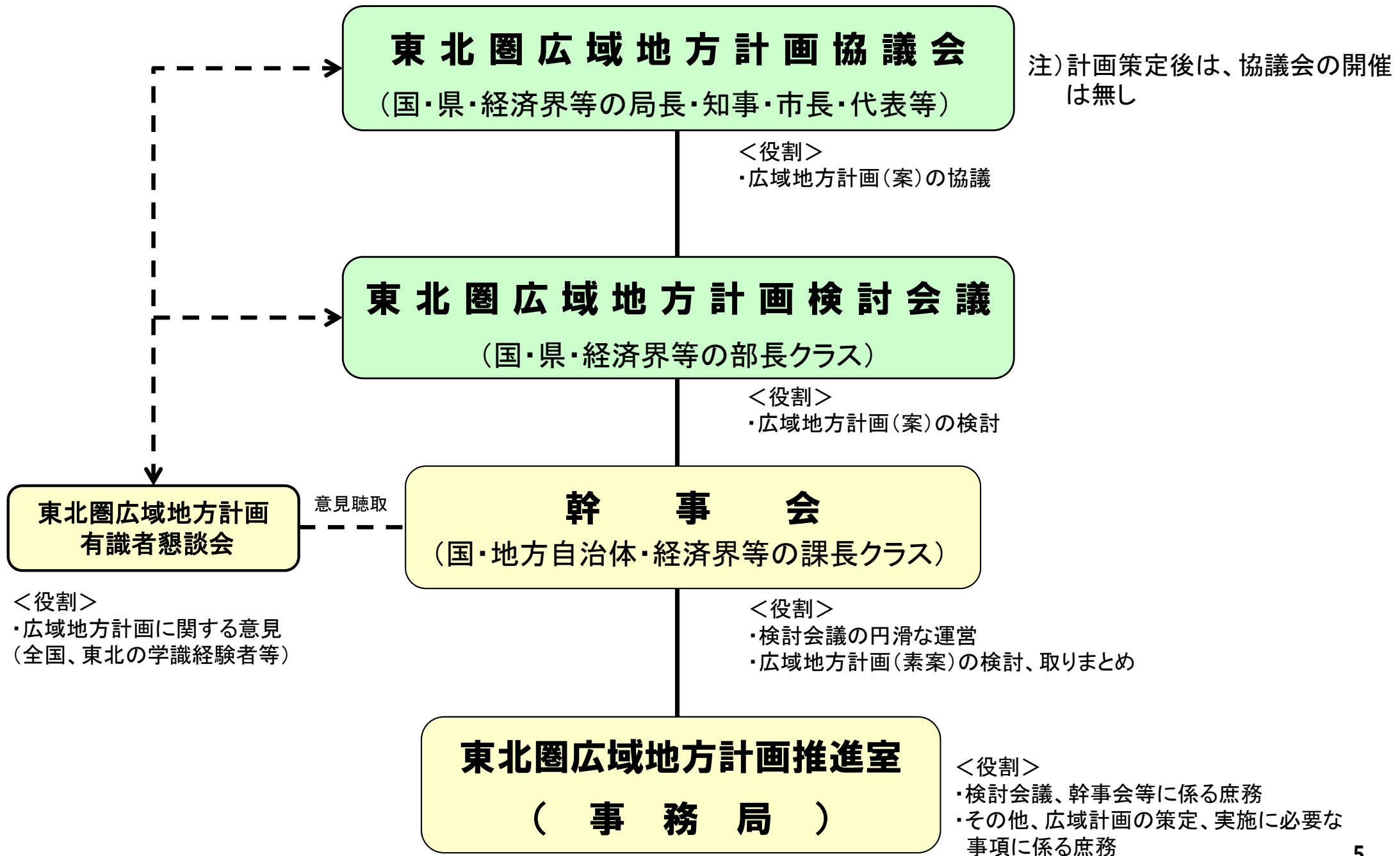
【東海環状自動車道等】

海外企業との経済交流のイメージ



出典: 中部経済産業局HP

東北圏広域地方計画策定の体制



東北圏広域地方計画協議会の組織

地方公共団体			経済界	国の地方行政機関
道 県	政令市	市町		
北海道知事 青森県知事 岩手県知事 宮城県知事 秋田県知事 山形県知事 福島県知事 新潟県知事 富山県知事	 仙台市長 新潟市長	 青森市長 長岡市長 宮城県丸森町長 新潟県聖籠町長	 (一社) 東北経済連合会 会長 東北六県商工会議所連合会 会長 (一社) 新潟県商工会議所連合会 会頭	 東北経済産業局長 関東経済産業局長 東北地方整備局長 関東地方整備局長 北陸地方整備局長 東北運輸局長 北陸信越運輸局長 第二管区海上保安本部長 第九管区海上保安本部長 東京航空局長 東北地方環境事務所長 関東地方環境事務所長 中部地方環境事務所長 岩手復興局長 宮城復興局長 福島復興局長

H24年度追加

東北圏が目指す姿

「東北圏広域地方計画」は、東北圏の発展を目指して参画するすべての人々の、これからの活動の指針となるものです。
「新しい将来像」を掲げ、この実現に向けた「戦略的目標」や「主要な施策」そして「広域連携プロジェクト」を示しています。

新しい将来像

豊かな自然の中で交流・産業拠点として発展するふるさと「東北にっぽん」



東北圏のポテンシャルを活かし、東北圏を支える人々が才能を発揮。国内外の人々との交流・連携を進め、新たな時代の潮流に対応・貢献できる多様で自立した東北圏を形成。
美しい自然、多様な人々が光り輝く、森と海、人の息吹と躍動感に満ちた空間を創りあげていく。

3つの基本方針



5つの戦略的目標及び主要な施策・広域連携プロジェクト

● 戦略的目標と主要な施策 ●

I 恵み豊かな自然と共生する環境先進圏域の実現

- 地球環境保全のための低炭素社会・循環型社会の構築
- 美しい四季に彩られる森林や田園、川や海辺の保全と継承
- 豊かな水環境と海域の環境保全・再生・利用

II 雪にも強く安全で安心して暮らせる温もりのある人に優しい圏域の実現

- 災害に備えたしなやかな圏域の形成
- 冬に強い地域づくりの推進
- 都市と農山漁村の共生と交流を推進する持続可能な生活圏域の形成
- 地域の持続的な発展の核となる活力ある都市の形成
- 暮らしやすい農山漁村の形成
- 人に優しい圏域づくり

III 地域の資源、特性を活かした世界に羽ばたく産業による自立的な圏域の実現

- 国際競争力を持つ産業群の形成
- 地球に優しいエネルギーの安定供給と世界を先導するエネルギー技術開発の推進
- 東北圏の総合力が支える持続可能な農林水産業の創出
- 東北圏ならではの地域資源を活かした観光交流の拡大

IV 交流・連携機能の強化による世界に開かれた圏域の実現

- 「環太平洋・環日本海ゲートウェイ」の形成
- 高速交通交流圏の形成
- 圏域内外を結ぶ多様で重層的なネットワーク

V 東北圏民が一体となって地域を考え行動する圏域の実現

- 「東北にっぽん」を創造する地域づくり協働体の構築
- 「東北にっぽん」の創造を支える人材の育成と活用

● 広域連携プロジェクト ●

新しい将来像の実現のため、今後10年間で重点的に進める取組を広域連携プロジェクトとして示しています。

- 1 東北圏のポテンシャルを活かした低炭素・循環型社会づくりプロジェクト
- 2 歴史・伝統文化、自然環境の保全・継承プロジェクト
- 3 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震等大規模地震災害対策プロジェクト
- 4 地球温暖化に伴い高まる自然災害リスクへの適応策プロジェクト
- 5 豪雪地域の暮らし向上プロジェクト
- 6 都市と農山漁村の連携・共生による持続可能な地域構造形成プロジェクト
- 7 地域医療支援プロジェクト
- 8 次世代自動車関連産業集積拠点形成プロジェクト
- 9 農業・水産業の収益力向上プロジェクト
- 10 「日本のふるさと・原風景」を体験できる滞在型観光圏の創出プロジェクト
- 11 グローバル・ゲートウェイ機能強化プロジェクト
- 12 環日本海広域交流圏の形成プロジェクト
- 13 地域づくりコンソーシアム創出による地域支援プロジェクト